

2011年度 第1回市民公開型教職員協同講習会アンケート 抜粋

講師：コミュニケーション有限会社 代表取締役 山元 賢治 氏

2011年7月22日(金)  
クラーク・チャペル  
16:45～18:15

《学生》

- ・今回の講演の中で一番心に残った事は「社会を変えなければ自分から変わらないといけない」という言葉でした。周りを変えていこうと思うならば、周りに何かを投げかけるだけでなく自分が変わっていかなくては、周りも反応しきれないのだと思いました。とても「気付き」の多い講演でした。
- ・今まで色々な講演会に参加したことがありますが、こんなに刺激を受けたことはありません。私も団体のリーダーをやっているのですが、そこで活かせるような事がいくつもあったので、本当に良かったです。「変化を起こすものこそがリーダー」これが一番心に残りました。
- ・「スピード感」「変化に対応する力」をつけようと思いました。「聞く力」「Face to Face」でやっていきます！本日はありがとうございました。
- ・リーダーシップに関する話を、実際にビジネスの世界で実践されてきた方から聞くことが出来て非常に勉強になりました。今やっているプロジェクトに変化を起こすため頑張っていこうと思います。
- ・自分自身リーダーに向いていないと思っていたのですが、リーダーに必要な資質の中には人間に必要な資質もあると思いました。特に「聞く力」は伸ばしていきたいと思います。将来を見据えてしっかり「考えること」の大切さが分かりました。
- ・今回山元さんの話を聞いて、リーダーシップの事を越えて人間のあり方のようなものと考え直され、知ることが出来たと思います。日本人の会議のことなど、グサッと心に刺さり、これから自分も直していこうと思いました。貴重な経験ありがとうございました。
- ・今回の山元さんの話の中で一番印象に残っている事が「聞く力」です。私は人の話を聞くのが好きで、その力を伸ばしたいと思っていました。今日の話でヒントを得ることが出来た。

《一般》

- ・今回のお話を参考に、自分のスタイルをしっかりと確立していきます。
- ・プロ意識、時代の流れの早さ、リーダーシップについての考え方、再認識させていただきました。自分軸を再度直してみたいと思います。現在40代後半ですが、まだまだ若い気で頑張りたいと思います。周りを見て、ここへ参加して一生懸命聴いている学生は輝いて見えました。
- ・本日はPBLプログラムにおいて、貴重なお話を聞く事ができ、誠にありがとうございました。山元さんのお話は、頭の中では漠然と思いついていても、この年では出来ないことがほとんどでした。今からでも出来ることは、恥ずかしがらずに実践していきたいです。

2011年度 第2回市民公開型教職員協同講習会アンケート 抜粋

講師：オフィスアニバーサリー（財）生涯学習開発財団認定  
プロフェッショナルコーチ 竹下 知子 氏

2011年10月14日(金)  
クラーク・チャペル  
16:45～18:15

《学生》

- ・自分のタイプが分かったことで自分の弱みを知り、またそれがとてもしっくりきたので、とてもすっきりした。今のプロジェクトには課題も多いが、前向きに取り組んでいきたいと思う。
- ・プロジェクトへの関わり方を見直すとても良い機会となりました。良いチームを作るよう、自分に出来ることは何かを考え行動していきたいと思えます。竹下さんの人の聞く力に訴える話し方に感激しました。
- ・他者から見た自分がこうも違うものなのかと痛感しました。
- ・改めてチームビルディングという角度からプロジェクトメンバーを捉え直すことができました。
- ・今後のプロジェクトの授業でもチームで活動し、ゴールを共有するということを意識しながら目標に向かいたいと思います。
- ・参加型の会でとても楽しかったです。自分のプロジェクトの弱みを知ることができただけでなく、コーチングの模擬体験ができ、「聞く」ということを意識的に行えました。実際にチームや社会に出た時に活かそうと思います。
- ・秋学期になって本格的にプロジェクトを進めていく時期に、プロジェクト内で意見が食い違うことが多々ありました。今日のセミナーで、人によってコミュニケーションの仕方を変えることがより有効なことを知って、非常に有意義な時間となりました。
- ・秋学期からプロジェクト科目のリーダーをすることになり、良いチーム作りのヒントが得られたらと思い、今日の講習会に参加しました。もっとメンバー間のコミュニケーションを活発にし、一人一人の強みを生かし、弱みを意味のないものにするように、これから頑張っていきたいと思います。

《一般》

- ・チームの人間関係において、公平に投じていくことはもちろん大事だが、タイプによってより良い使い分け、その人にとってより効果的な対応が出来れば素晴らしいので、その参考にさせていただきます。
- ・仕事場の中でも活かせるチームビルディングについて学ばせていただきました。フィードバックとして全スタッフに伝えたいと思います。

2011年度 第3回市民公開型教職員協同講習会アンケート 抜粋

講師：根本 見佑 氏 (映像作家)

武田 陽介 氏 (写真家)  
笠原 敬太 氏 (社員食堂ラボ運営)

かまだ ゆたか 氏 (DoGA代表・CGアニメプロデューサー)

2011年12月8日(木)  
至誠館3階会議室  
16:45～18:15

《学生》

- ・著作権について知ることは大切ですが、最終的に人と人の関わり合いであり、誠意をもって接することが一番大切だとわかりました。やはり、隣人に愛をもって接するということに繋がるのだと思います。これから著作物などに関わる際には、今日の事を思い出して、自分の誠意を持って関わっていきます。
- ・著作権の問題を考える際に、法的な問題うんぬんを考えるだけでなく、そもそも一人人間として相手の立場に立って考えるというのは非常に大切なことだと思います。本日お話いただいた内容を今後の参考にしたいです。
- ・まず何よりも世の中には色々な職業があるなと思いました。作品をぞんざいに扱うのではなく、これからはその作品を創作した背後の人の努力・工夫を見つめていきたいです。
- ・「やっつてダメ」ではなく、「何故やっつてダメなのか」を考える事が一番重要だと気付きました。
- ・今回の講義を聞いて、作品の背景にはクリエイターの思いがあるということに改めて実感しました。これから作品を扱うときにも忘れないようにしたいと思います。
- ・著作権と聞いて今回の講義はかたい内容なのかと思いましたが、講演者の方々の話し方や見せ方の上手さにも引き込まれました。発信者でも著作権は大きな問題で、クリエイティブに影響があるという話は驚きました。やはり世の中が著作権について知らなさすぎる事がクリエイティブの制限を増幅させているのではないかと思います。
- ・著作権の問題に関しては、考えれば考えるほど様々な法的事項に抵触するのではないかと不安になります。そもそも著作権とは、作品やクリエイターを守る為にあるということを再確認し、道徳的な観点からまず考えてみようと思った。法的知識も必要になってくると思うので、合わせて勉強しておこうと思います。
- ・今日のお話の中で、製作者への思いやりや誠意が大事だということを知ってとても納得しました。掲示を見て飛び込みで参加しましたが、楽しかったです。ありがとうございました。

《一般》

- ・自分もブログや小説などを書く機会があるので、著作権を気にしている部分が多々ありました。今日は実際のクリエイターと編集者の方々の意見を生で聞く事ができて本当に勉強になりました。ありがとうございました。

## 外部評価委員会

本取組であるPBL推進支援センター事業及びプロジェクト科目関連事業に対する学外評価、また本学の教育研究等の向上に資する提言を得るため、毎年度末、学外の有識者から成る外部評価委員会を開催した。

### 外部評価委員（敬称略）

《2009-2010年度》2009年11月1日～2011年3月31日

門川 大作 京都市長  
北尾 哲郎 社団法人京都経済同友会 代表幹事  
中村 尚五 東京電機大学 情報環境学部教授

《2011年度》2011年4月1日～2012年3月31日

門川 大作 京都市長  
田辺 親男 社団法人京都経済同友会 代表幹事  
中村 尚五 東京電機大学 名誉教授

### 外部評価委員会記録

《2009年度》

2010年3月15日（月）10：00～11：30 日東薬品工業株式会社 会議室

出席者：北尾 哲郎（社団法人京都経済同友会代表幹事）  
山田 和人（同志社大学PBL推進支援センター長・文学部教授）

2010年3月17日（水）13：00～14：00 同志社大学 有終館担当理事室

出席者：門川 大作（京都市長）  
中村 尚五（東京電機大学情報環境学部教授）  
山田 和人（同志社大学PBL推進支援センター長・文学部教授）  
辻本 哲宏（同志社大学PBL推進支援センター委員・生命医科学部教授）

PBL推進支援センター事業の開始以来、初の外部評価委員会開催となった。山田センター長より改めて本取組の趣旨が説明され、初年度ということもあり、「こういうことが出来るのでは？」「こういう点に気をつければ良いのでは？」等意見交換がなされた。PBL型教育については可能性がある教育法として、また本センターについては他大学等を調査して今後の改善につなげていく姿勢に評価を頂いた。同時に、PBLの知名度の低さ等の課題も指摘され、PBL型教育推進の側面への意見を頂いた。

《2010年度》

2011年3月14日（月）14：00～16：00 同志社大学 徳照館会議室

出席者：門川 大作（京都市長）  
北尾 哲郎（社団法人京都経済同友会代表幹事）  
中村 尚五（東京電機大学情報環境学部教授）  
山田 和人（同志社大学PBL推進支援センター長・文学部教授）

本取組2年目の活動を振り返り、活発化する本センターの事業による波及効果について問われた。また、社会における人材育成の問題と、大学の中での人材育成の問題をどうつなぐかについては、大学時代に自ら

考える力を身に付けさせて欲しいという大学に対する要望があり、PBL型教育に対する期待が寄せられた。

《2011年度》

2012年3月9日（金）13：00～15：00 同志社大学 有終館担当理事室

出席者：田辺 親男（社団法人京都経済同友会代表幹事）

中村 尚五（東京電機大学名誉教授）

山田 和人（同志社大学PBL推進支援センター長・文学部教授）

2012年3月23日（金）16：00～17：00 京都市役所

出席者：門川 大作（京都市長）

山田 和人（同志社大学PBL推進支援センター長・文学部教授）

経済産業界からは従来の講義スタイルだけでない大学教育の必要性が指摘された。社会が求める大学教育のあり方、現状の学生像について、PBLを通して社会のニーズと学生のニーズが合わさるようになればとの期待が寄せられた。課題解決力や適応能力といった本学のPBL型教育が目指すプロジェクト・リテラシーが、社会からも求められていることが改めて確認され、今後のPBL型教育の在り様を考える機会となった。また、2011年度で最終年度となる本GP事業であるが、これまでの事業を本当に機能させられるかは、今後の取組次第であると叱咤激励を受けた。

## 調査訪問・シンポジウム等への参加

PBLのモデルの開発を目指し、正課科目・課外活動を問わず、他の大学や教育機関で実施されているPBLの取組調査を行った。過去に調査を行った先についても再度訪問し、取組の推移を調査した。

### 《2009年度》

- 2009年9月23日 岡山大学「第6回教育改善学生交流 i\*See 2009」  
参加：中原伸夫
- 2009年10月18日 大学コンソーシアム京都  
第7回SDフォーラム「教育の質向上を支える職員の職能開発」  
参加：中原伸夫
- 2009年10月23日 毎日新聞 第6回毎日大学フォーラム  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2009年11月27日 内田洋行セミナー「大学・高校実践ソリューションセミナー 2009 in 大阪」  
参加：牧瀬喬
- 2009年12月12日 法政大学 第3回FDフォーラム「学生・職員・教員によるFD改善とは」  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2010年1月7～8日 大学教育改革プログラム合同フォーラム  
参加：金田重郎、角谷哲史、中原伸夫、弘田一恵、長束友実
- 2010年1月29日 早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター (WAVOC)  
「社会貢献で大学生は育つのか? Vol.2」  
参加：弘田一恵
- 2010年2月17日 東京大学「大学・アクティブラーニング・社会」  
参加：山田和人
- 2010年2月22日 金沢大学 第7回大学教育セミナー「アクティブラーニングが創る大学教育の未来」  
参加：山田和人、中原伸夫
- 2010年2月23日 ◇東京学芸大学 学務課、学生キャリア支援センター  
教育系課程で必修科目として「プロジェクト学習科目」を設置、総合演習と一体となっており、基礎力をつける為の積上げ型であった。但し、カリキュラム改訂の為、2010年度以降のカリキュラムではプロジェクト学習科目は廃止。キャリア支援の発信拠点である「学芸カフェテリア」では、学修支援メニューとキャリア支援メニューが効果的に設定されている。  
調査：山田和人、中原伸夫、堀井克敏、長束友実
- 2010年2月27日 京都文教大学 特色GP総括シンポジウム「現場主義教育からみえる課題と展望」  
参加：山田和人、中原伸夫、弘田一恵
- 2010年3月5日 経済産業省「社会人基礎力育成グランプリ2010 決勝大会」  
参加：利田吉弘、中原伸夫、堀井克敏、小川里奈、粟飯原理
- 2010年3月6日 学習院大学 FIBEの会「自ら学ぶ意欲を持ち、思考と試行を繰り返し、表現することを楽しみ、実行する児童・生徒・学生はどうしたら育つのか」  
参加：牧瀬喬

### 《2010年度》

- 2010年5月13日 株式会社ワークアカデミー 第1回就業力育成支援セミナー  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2010年5月28日 ◇ラーンネットグローバル・スクール  
神戸市に位置する民間スクール。小中学生対象のフルスクールでは、ベーシック学習、テーマ学習、プロジェクト学習、とことんやろう!の4つの学習方法を用いる。子供達が中心の学びを助ける教員を「ナビゲータ」と呼んでいる。  
調査：金田重郎、中原伸夫、弘田一恵
- 2010年7月8日 株式会社進研アド  
「社会から求められる大学の人材養成とその教育力」シンポジウム  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2010年8月2日 京都大学高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会共催  
大学生研究フォーラム2010  
参加：山田和人、金田重郎、角谷哲史

- 2010年9月1～3日 社団法人私立大学情報教育協会 平成22年度教育改革ICT戦略大会  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2010年9月15日 経済産業省 社会人基礎力育成事例研究セミナー（近畿地区）  
「産業界の協力による社会人基礎力プログラムの作り方」  
参加：角谷哲史、利田吉弘
- 2010年9月16日 New Education Expo 実行委員会「New Education Expo 2010」  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2010年9月21日 経済産業省 社会人基礎力育成事例研究セミナー（中部地区）  
「振り返り・評価を活用した社会人基礎力の育成」  
参加：中原伸夫
- 2010年9月27日 経済産業省 社会人基礎力育成事例研究セミナー（北海道地区）  
「社会人基礎力を育成する授業の工夫」  
参加：利田吉弘
- 2010年10月3日 早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）  
大学教育における「海外体験学習」研究会  
「教職協働を越えて～学びを支える仕組みづくり～」  
参加：角谷哲史
- 2010年10月9日 法政大学 第8回FDシンポジウム  
「教員・職員の職務からみた教育改善—新たな展開を目指して—」  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2010年10月11日 経済産業省 社会人基礎力育成事例研究セミナー（東北地区）  
「社会人基礎力で成績評価を行うためには」  
参加：角谷哲史
- 2010年10月31日 関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学  
関西4大学学長フォーラム「次代を担うリーダーを育てる—関西4大学の提言」  
参加：栗飯原理
- 2010年11月13日 東京電機大学 情報環境学部10周年記念講演  
参加：中原伸夫
- 2010年11月20日 ◇品川女子学院「28プロジェクト」、オープンキャンパス  
28歳をターニングポイントとし、社会で活躍する女性を育てる指導を中高一貫で行う。毎年中学3年生の総合演習において企業とのコラボレーションを行う他、様々な特別講座を設けている。  
調査：角谷哲史、中原伸夫、長東友実
- 2010年12月2日 経済産業省「社会人基礎力育成グランプリ2011 近畿地区予選大会」  
参加：角谷哲史、中原伸夫
- 2011年1月24～25日 大学教育改革プログラム合同フォーラム  
参加：山田和人、角谷哲史、中原伸夫、長東友実
- 2011年2月28日 愛知東邦大学「就業力育成と大学の教育改革」  
参加：中原伸夫
- 2011年3月9日 経済産業省「社会人基礎力育成グランプリ2011 決勝大会」  
参加：中原伸夫、寺本正芳、牧瀬喬、廣井彰人、長東友実
- 《2011年度》
- 2011年5月28日 大学コンソーシアム京都  
京都高等教育研究センター 2010年度プロジェクト研究報告会  
参加：角谷哲史、平田有喜宏
- 2011年6月5日 大学教育学会「大学教育の質とは何か—ふたたび大学のレゾナントを問う—」  
参加：角谷哲史、平田有喜宏、弘田一恵、長東友実
- 2011年6月15日 New Education Expo 実行委員会「New Education Expo 2011」  
参加：角谷哲史、平田有喜宏
- 2011年7月2日 法政大学 第6回FDワークショップ  
「PBLによる学びの改善—有意義な取り組みとは—」  
参加：角谷哲史、栗飯原理
- 2011年7月19日 ◇早稲田大学 プロフェッショナルズ・ワークショップ

- 企業や自治体を持つ課題に対し、企業(自治体)・大学・学生が協力してプロジェクトを遂行、課題解決に取り組む。7-9月の間に実施。  
調査：平田有喜宏
- 2011年7月19日 立教大学 経営学部シンポジウム  
「アクティブ・ラーニングとピア・ラーニング～立教大学BLPの取り組み」  
参加：平田有喜宏
- 2011年7月20日 ◇明治大学 商学部「特別テーマ実践科目」  
社会の中にある課題を見つけ出し、解決策の企画・実行、その成果を報告する。毎年約20テーマが開講。社会が見える、社会から見えるという、学生の「見える化」を目指す。  
調査：平田有喜宏
- 2011年8月25日 ◇甲南大学 CUBEプロジェクト科目  
マネジメント創造学部(CUBE)においてプロジェクト型学習を学部教育の中心に位置付けている。西宮キャンパスはマネジメント創造学部のみとなっており、プロジェクト型学習を支える学習環境を提供している。  
調査：平田有喜宏
- 2011年8月30日 ◇広島経済大学 興動館  
正課の「興動館科目」、課外の「興動館プロジェクト」から成る「興動館教育プログラム」を設置。各プロジェクトのスペースや演習室、宿泊施設を伴う興動館には専任スタッフが常勤。興動館プロジェクトには職員や教員のコーディネーターを配置し、活動をサポートする。  
調査：平田有喜宏
- 2011年8月30～31日 第43回IDE大学セミナー「自律的学習」  
参加：平田有喜宏
- 2011年9月6～8日 社団法人私立大学情報教育協会 平成23年度教育改革ICT戦略大会  
参加：角谷哲史、平田有喜宏
- 2011年9月10日 武蔵大学 教育GPシンポジウム  
参加：平田有喜宏
- 2011年10月6日 首都大学東京 FDセミナー「大学らしい知にこだわったアクティブ・ラーニング」  
参加：長東友実
- 2011年11月17日 株式会社内田洋行「大学・高校実践ソリューションセミナー 2011 in 大阪」  
参加：平田有喜宏、牧瀬喬
- 2011年11月25日 (株)NPCコーポレーション/大学問題研究所  
シンポジウム「危機の時代の大学経営2011大学広報とブランディング」  
参加：牧瀬 喬
- 2011年11月26～27日 大学教育学会 2011年度課題研究集会  
参加：平田有喜宏、牧瀬喬、長東友実
- 2011年12月1日 京都大学高等教育研究開発推進センター 公開研究会  
「Deep Learningにもとづく大学教育のあり方」  
参加：平田有喜宏、弘田一恵、長東友実
- 2011年12月13日 ◇九州工業大学 工学部  
総合システム工学科においてPBL科目を1-3年次全学期に必修科目として設置、基礎・専門・演習・実験・卒業研究へとつなげる。PBL用の空間、プロジェクトラボラトリがある。  
◇北九州市立大学 キャリアセンター、地域共生教育センター、地域創生学群  
キャリアセンターでは学生が企画・運営を行う合同業界研究会を実施。地域共生教育センターは「421Lab.」として学生の地域活動を支える。また、地域創生学群では、学部の枠を越えて幅広い分野を学ぶことができる。  
調査：山田和人、平田有喜宏、弘田一恵、長東友実
- 2011年12月14日 ◇広島経済大学 興動館  
興動館プロジェクトのサポート体制等のより詳細な調査、および意見交換を目的に再訪問。  
調査：山田和人、平田有喜宏、弘田一恵、長東友実
- 2012年1月28日 関西大学 第6回FDフォーラム  
「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開最終成果報告会」  
参加：長東友実
- 2012年2月20日 2011年度プロジェクト科目「平成の京街道をゆく～京阪沿線の魅力を発見・発掘・発信しよう！」受講生による観光施策提言  
参加：平田有喜宏

- 2012年2月23日 三重大学 公開FD  
 「三重大学版初年次教育の展開と検証－全学生対象のPBL型教育－」  
 参加：平田有喜宏
- 2012年2月27日 社会人基礎力グランプリ2012決勝大会  
 参加：平田有喜宏、矢淵愛子、奥谷綾
- 2012年2月27日 ◇立教大学 経営学部BLP  
 経営学科のコアプログラムとして展開されているBLP(Business Leadership Program)では、学期毎にプロジェクト型学習と理論学習を交互に設定。過年度受講経験のあるSA (Student Assistant) が活躍する。教育GP終了後も継続する事業として、2007年以來再訪問。  
 ◇立教セカンドステージ大学  
 シニア層を対象とした生涯学習プログラム。バラエティ豊かな講師陣、講義内容を設定、学生自ら学ぶ意欲も高い。  
 調査：山田和人、新茂之、平田有喜宏、弘田一恵、長東友実
- 2012年2月28日 ◇東海大学 チャレンジセンター  
 他学部他学年のメンバーから成るプロジェクト活動。学生主体でゼロから企画内容を作り上げていく。活動を通じて集い力・挑み力・成し遂げ力の習得を目指す。センターには専任スタッフが常勤し、各プロジェクトは、担当の職員および教員がきめ細かいサポート、指導を行う。  
 ◇東海大学 教養学部SOHUMプログラム  
 教養学部全学生を対象とした実践型教育プログラム。全員にSOHUMカルテ（個別評価シート）を作成、ステップ毎の評価基準を開示している。  
 調査：山田和人、平田有喜宏、弘田一恵、長東友実
- 2012年3月3日 大学教育改革フォーラムin東海2012  
 参加：平田有喜宏
- 2012年3月7日 九州工業大学 教育フォーラム「大学教育におけるパラダイムシフトと新機軸」  
 参加：平田有喜宏
- 2012年3月14日 日本私立大学協会 私学高等教育研究所第51回公開研究会  
 「ルーブリックとティーチング・ポートフォリオ」  
 参加：平田有喜宏

## 学外報告

本学が取り組む「プロジェクト科目」を中心としたPBL（Project-Based Learning）型教育について報告依頼を受け、他大学や企業が主催するシンポジウム等で講演を行った。

### 《2009年度》

- 2009年9月22日 岡山大学  
「第6回教育改善学生交流 i\*See 2009 職員が参加する教育改善活動について」  
会場：岡山大学 津山キャンパス  
報告者：中原伸夫  
講演：「PBLの運営サポートとしての職員の役割 学びの原点－プロジェクト科目の挑戦」
- 2009年10月23日 毎日新聞 第6回毎日大学フォーラム  
会場：名古屋市中ミッドランドスクエア  
報告者：圓月勝博
- 2010年2月20日 同志社大学商学部特色GPシンポジウム  
「学びの意欲を引き出す新しい学習スタイル」  
会場：キャンパスプラザ京都  
報告者：圓月勝博  
講演：「プロジェクト・リテラシーの育成」
- 2010年3月5日 大阪大学 大学教育実践センター  
会場：大阪大学 豊中キャンパス  
報告者：山田和人  
講演：「学習支援システムとプロセス評価－同志社大学の全学共通教養教育PBL（プロジェクト科目）を中心に－」
- 2010年3月23日 九州工業大学 平成21年度PBLシンポジウム  
会場：九州工業大学 戸畑キャンパス  
報告者：山田和人  
講演：「同志社大学の教養教育PBL（プロジェクト科目）の試み」

### 《2010年度》

- 2010年6月30日 同志社研修・交流会  
会場：同志社大学 新町キャンパス 尋真館30番教室  
報告者：山田和人  
講演：「PBLが拓く未来－教育の壁を超えて－」
- 2010年8月6日 株式会社SIGEL 学修支援としてのSNS・ポートフォリオ事例紹介セミナー  
会場：株式会社SIGEL 京都オフィス会議室  
報告者：山田和人  
講演：「自律的学習とポートフォリオ」
- 2010年9月16日 New Education Expo 実行委員会「New Education Expo 2010」  
「大学における新しい授業の形」  
会場：大阪マーチャングイズ・マート  
報告者：山田和人  
講演：「プロジェクト学習とポートフォリオ～PBLにおける評価の視点と方法についての問題提起～」
- 2010年11月13日 東京電機大学 情報環境学部10周年記念フォーラム  
会場：東京電機大学 千葉ニュータウンキャンパス  
報告者：山田和人  
パネルディスカッション：「情報環境学部における教育方法について」
- 2011年1月19日 同志社大学 リエゾンオフィス・知的財産センター 2010年度リエゾンフェア  
会場：新・京都ホテル  
報告者：山田和人  
講演：「テーマ公募制によるプロジェクト科目～社会の教育力を大学へ～」



- 2011年1月24日 平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラム  
「大学教育推進プログラム」ポスター展示会  
会場：アキバ・スクエア  
報告者：山田和人、角谷哲史、中原伸夫、長東友実
- 《2011年度》
- 2011年5月28日 大学コンソーシアム京都  
京都高等教育研究センター 2010年度プロジェクト研究報告会  
会場：キャンパスプラザ京都  
報告者：山田 和人
- 2011年6月5日 大学教育学会「大学教育の質とは何か—ふたたび大学のレゾンテールを問う—」  
会場：桜美林大学 町田キャンパス  
報告者：山田和人、中原伸夫  
細尾皓平（以下、2010年度プロジェクト科目受講生）、桂真奈美
- 2011年7月2日 法政大学 第6回FDワークショップ  
「PBLによる学びの改善—有意義な 取り組みとは—」  
会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス  
報告者：山田和人  
講演：「PBLは日々FD—同志社大学プロジェクト科目の場合—」
- 2011年10月20日 私立大学キャンパスシステム研究会 2011年度第4回第一分科会  
会場：同志社大学 寒梅館211番教室  
報告者：山田和人「PBLで学生は変わる！社会が変わる！」  
細尾皓平（2010年度プロジェクト科目受講生）、中村みゆ（以下、2011年度プロジェクト科目受講生）、田中菜月、西川久美子

# 資料

# プロジェクト科目公募パンフレット



## 社会の教育力を同志社大学へ！

あなたの提案が授業になる！2011年度プロジェクト科目、テーマ募集！

- **社会を生きていく智慧・教養が求められています。企業・団体・個人より募集します！**  
同志社大学では、従来の教養での学修の枠を超え、社会とつながった実践型・参加型の学修機会を創出したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)を基本とする。授業科目「プロジェクト科目」を2010年度から設置しています。この「プロジェクト科目」は、地域社会や企業の方にも関心を喚起し、社会と企業が持つ「教育力」を大学の広大な教育現場の中に導入することによって、学生に主体的な学習や研究を促すとともに、「現場に学ぶ」視点を得られ、実践的な問題発見・解決能力など、いわゆる学生の総合人間力を養成することを目的としています。
- **プロジェクト科目とは、「現場」に学び、学生自らが考え、行動する授業です**  
大学の学部の正課科目で、プロジェクト・ベースに学習を進めたい科目です。ご提案いただいたテーマをプロジェクトとして、学生が主体となり、自発的に学んでいく授業形態としていただきます。従来の学修では経験できなかった、実践的・体験的学習です。
- **プロジェクト科目を教員と共に担ってみませんか？**  
「プロジェクト科目」授業の趣意にご賛同いただき、教員とともに「プロジェクト科目」をご担当いただき、学生の成長・発展の一翼を担っていただける企業・団体（関係団体等を含む）、個人の方を募集いたします。
- **ユニークなテーマを持っています！あなたの提案が授業になります！**  
授業科目に追加したプロジェクト科目の授業の内容では記載していません。自由な発想でご応募下さい。なお、「新卒のあひ」「新卒のあひ」あるいは「新卒のあひ」「新卒のあひ」のいずれかでお届けいただき授業科目が定められるテーマ、内容であることをお願いします。

- ※2010年度募集テーマ(抜粋)
- 企業の広報戦略を学ぶプロジェクト
  - 企業のCSR活動を学ぶプロジェクト
  - 「フットワーク」を学ぶプロジェクト
  - 「社会とつながる」を学ぶプロジェクト
  - 「社会とつながる」を学ぶプロジェクト
  - 「社会とつながる」を学ぶプロジェクト
  - 「社会とつながる」を学ぶプロジェクト
  - 「社会とつながる」を学ぶプロジェクト
  - 「社会とつながる」を学ぶプロジェクト
  - 「社会とつながる」を学ぶプロジェクト

- **科目の選定について**
  - (1) 科目代表者およびアドバイザーとして、本学の専任教員1名が科目の選定を代表することとします。
  - (2) 本学の科担任教員の教員とともに、学生の指導をお願いします。具体的には、選定していただいたテーマを基に、登録学生の選考、授業（春学期、秋学期）それぞれ90分程度の授業を15回、履修指導、成績報告に携わっていただきます。登録後のガイダンス、履修指導などの実施内容にもご協力いただきます。
  - (3) テーマをご提供いただき、採択された場合は、同志社大学の各学部に所属する教員として登録します。主として授業を担当いただくテーマご提案には、同志社大学教員として入府願望なく、本学より勤務を希望していただく、本学の専任教員に相当する経歴を希望いたします。
  - (4) 採択した場合、学生には、1セメスターにつき2単位が与えられます。
  - (5) 1テーマにつき、授業（登録）する学生は、5～15名程度を定めます。登録者が5名未満の場合は申請できません。
  - (6) 授業担当として、1セメスター、1単位につき200円（税込）の費用が予定されています。費用範囲は、個人（学内関係）および企業（ゲスト・スピーカー）の区別、文庫費、印刷費、用品費、印刷費等に限り、授業費に限りません。必要とする場合は、科目代表者・登録学生とご相談・調整の上、執行していただきます。なお、費は、費用は、個人に限り、「新卒のあひ」として科目の選定費に充当していただけます。
  - (7) 授業担当には「授業費の引き」を行います。授業の選考や登録、履修指導の方法などについて解説しています。
  - (8) 採択された科目と同一内容のテーマの場合、採択は3回を上限とします。（2010年度から開始しています。）
  - (9) 詳細は「募集要項」をご覧ください。

## 授業の流れ



2010年度 科目代表者・関係企業の方

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

2010年度プロジェクト科目  
「新卒のあひ」担当教員 藤田 浩一 (新卒のあひ担当)

- Q. 教室で授業をしないといけませんか？  
A. 必ずしも教室で授業を行う必要はありません。テーマ、内容に応じて、学内における制作用・取材活動・調査活動をもって授業とする事も可能です。ただし、教室内での活動を行う場合は、関係者、学生の交通費負担、時間上での制約などの問題がありますので、この点にご留意ください。
- Q. 科目代表者になっていただける同志社大学の教員が見つからないと応募できないのですか？  
A. 応募時点で科目代表者となる教員が見つからない場合は、応募テーマについて本学専任教員に対し学内公募を行いますので、応募フォームにその旨をご記入下さい。科目代表者の選定を行ったうえで、テーマ決定依頼書とさせていただきます。
- Q. 募集科目数はどれくらいですか？全て認められるのですか？  
A. 応募いただいた募集要項をプロジェクト科目選考委員会および教員選定委員会が審査し、選定します。2011年度は25科目程度を募集予定です。
- Q. 複数の企業や複数人で応募してもよいのですか？  
A. 構いません。主として授業をご担当いただくテーマ提案者を1名に定めていただき、1名のみを掲載申請とご応募させていただきます。他のテーマ提案者の場合は、ゲスト・スピーカーとしてご参加いただけます。科目代表者の教員とご相談いたします。
- Q. 受講生の選定はどうやって行うのですか？  
A. 学生に公募要項等を記入された登録申込書を送付して、各科目担当者、代表者ご担当者等を実施した上で登録者の選考を行います。



■ **2011年度募集科目の選考スケジュール(予定)**

年月	2011年度 募集要項の掲載
3月下旬	科目代表者、アドバイザーの選考・決定・発表
4月	春学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載 (プロジェクト活動)
5月	春学期 学生選考委員会
6月	春学期 選考結果発表
7月	春学期 SA/TA 募集要項の掲載、学生選考委員会
8月上旬	春学期 学生選考委員会、科目代表者選考委員会
9月	秋学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載
10月	秋学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載
11月	秋学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載
12月	秋学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載
2012年1月	秋学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載
2月下旬	秋学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載
3月上旬	秋学期 募集要項の掲載、募集要項の掲載、募集要項の掲載

- **公募に関する説明会の開催について**  
公募説明会を開催します！  
詳細は、プロジェクト科目公募の募集要項、申請書、募集要項等についてお問い合わせください。説明会にご参加いただくも応募は可能です。ご参加いただける方は、お申し込みください。なお、再招待も説明する内容は同じです。ご都合の良い日にご参加ください。

＜お申し込み＞  
日程：2010年10月8日(金) 14:00～15:00  
会場：同志社大学 京田町キャンパス 学務部101号室  
参加の申し込みは、プロジェクト科目選考委員会事務局（下記参照）までお電話ください。

- **応募方法について**  
ご記入いただく書類
- ① 応募申込書 (様式1および様式2)
- ② 履歴書
- ③ 職務経歴書

です。応募書類は、説明会会場で行われます。また、下記のURLのページからダウンロードが可能です。  
<http://www.doshisha.ac.jp/students/careercenter/pbl/>

- **必要書類を提出の上、下記の連絡先の住所まで、締切日までに到着するよう、郵便物等または手配郵便物で送付願います。ご都合の良い日をご郵送ください。書類到着後にご返信いたします。(郵送にお電話でご確認ください。)**
- **お申し込み**  
● 郵送にお申し込みの際は、一紙、郵封してください。  
● e-mailやfaxでの申し込みは、ご遠慮ください。  
● 提出後の差し直しは一切ありません。  
● 応募の際にご提供いただいた資料や書類は、返却しません。予めご了承ください。  
● 書類の到着しない場合は、お電話より電子メール、電話、FAX等により、ご連絡を差し上げます。書類より連絡がない場合は、書類が届いていない可能性がありますので、提出日付までご連絡をお願いします。

提出締切日は **2010年10月8日(金)** です。

- **プロジェクト科目に関するお問い合わせについて**  
プロジェクト科目に関する詳細については、お電話の募集要項、または下記のURLのページをご覧ください。  
<http://www.doshisha.ac.jp/students/careercenter/pbl/>

プロジェクト科目に関するお問合せ、応募申し込みに関するお問合せは、下記事務局までお願いします。

— プロジェクト科目選考委員会 事務局 —

【お申し込み】  
同志社大学 京田町キャンパス 学務部101号室  
TEL: 075-251-6000  
FAX: 075-251-3064  
e-mail: pbl@mail.doshisha.ac.jp

【お申し込み】  
同志社大学 京田町キャンパス 学務部101号室  
TEL: 075-251-6000  
FAX: 075-251-3064  
e-mail: pbl@mail.doshisha.ac.jp

【お申し込み】  
同志社大学 京田町キャンパス 学務部101号室  
TEL: 075-251-6000  
FAX: 075-251-3064  
e-mail: pbl@mail.doshisha.ac.jp



# プロジェクト科目ホームページ

TOPページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/index.html>



科目に関する最新情報や活動を紹介するブログ <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>



年度別に開講科目を紹介 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/theme/>



各担当者による学生向けアピール文 〈例〉 <http://pbl.doshisha.ac.jp/html/appeal/1008.html>



各プロジェクトの学生成果報告書 〈例〉 [http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/pdf/10\\_t\\_08.pdf](http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/pdf/10_t_08.pdf)

『スポーツイベント開催!』  
学生と地域の連携によるスポーツクラブ

春・秋連結学期 | 京田辺校地開講科目

## 1. 目的・概要

the purpose and an outline

本プロジェクト科目は「学生と地域の連携」をコンセプトにスポーツイベントの開催によって、大学と地域の交流を深め、地域の活性化と学生が成長することを目指しました。以下に実際に企画・開催したイベントの目的を記します。

**Touch the New Sports**  
ニュースポーツを通じてスポーツの楽しさや大切さを知ってもらうとともに、親子の絆を深め、同志社大学を身近に感じてもらうことを主眼としています。

**アシドー☆キッズ'10**  
日本古来の武士道精神に触れ、武道というスポーツに出会い認識を深めるきっかけを作るとともに、武道での礼儀作法を学んでもらうことを主眼としています。

annual schedule

2010年 4月 本プロジェクト詳細把握  
5月 わが国のスポーツ政策の現状把握

成果報告会のお知らせ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/reporting.html>

同志社大学  
Doshisha University

Google 検索

ホーム | 志望・進学 | MAP | 交通機関 | サイトマップ

大学紹介 | 教育(学部・大学院) | 研究活動 | 国際交流・留学 | 奨学金 | キャリア形成支援 | 国際 | 産学連携・地域連携

同志社大学で学びたい方 | 学歴入試 | 大学入試 | 看護学部 | 留学生 | 卒業生 | 一般の方

ホーム > 在学生 > 授業 | 講義 | 試験 | プロジェクト科目 | 成果報告会

在学生

## プロジェクト科目：成果報告会

授業・履修・試験

- 科目登録日程
- 授業時間等
- 授業概要
- 外講情報
- 試験等の種類と注意 (レポート表紙・油断試験ダウンロード)
- 試験実施情報
- 卒業成績
- 部活への対応について
- 単位留年発表時等の履修・試験の要請
- 国内留学・単位互換
- GPA制度の導入について
- 外英語オナーズ (外英語科目成績優秀表彰制度)
- 学位・一級内職
- ネットワーク利用資格認定試験
- パソコン利用者講習会
- プロジェクト科目
  - プロジェクト科目とは
  - テーマ募集
  - テーマ一覧
  - 登録説明会・先行登録
  - 授業概要
  - CNSについて
  - ダウンロード
  - e-Learning

プロジェクト科目の成果報告会を開催します。  
この成果報告会では、プロジェクト活動で学んだ成果を学生自身が発表します。  
**報告は学生が行います。**

発表形式は、春学期はポスターセッション形式で、秋学期はプレゼンテーション形式です。各プロジェクトの内容や特性を生かし、趣向を凝らした、独創性溢れる報告を期待しています。

**どなたでも来聴できます。**

同志社の学生がどんなことに熱心を持ち、どんなことを学んでいるのか、興味がありませんか? もちろん、学生だけでなく、教職員の方、一般の方も大歓迎です。ご興味のある方は是非、足をお運びください。

**開催日・場所・テーマ**

【今出川校地】  
日時：2012年1月22日(日)10:00～16:15 (9:30受付開始)  
場所：M21 (明通館21番教室)  
※今出川校地開講科目も京田辺校地開講科目も、全て今出川校地で行ないます。

【京田辺校地開講科目】

テーマ	開講期間	科目担当者 (所属・氏名)	科目代表者 (所属・氏名)
食育と健康 (食生活と食育について、正しい食生活と健康を支える)	春・秋	INPO 法人けんいんなん美 藤村 研二	【生命医科学部】 高田 好孝
ものづくりのしくみ	春・秋	産学連携	【理工学部】 藤

CNS (SNS型学修支援システム) の紹介 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/cns.html>

同志社大学  
Doshisha University

大学紹介 教育(学部・大学院) 研究活動 国際交流・留学 図書館 キャンパス施設・設備 産官学連携・地域連携

同志社大学で学びたい方 学費入試 大学院入試 生涯学習 在学生 卒業生 一般の方

ホーム 授業 履修 試験 プロジェクト科目 CNSについて

## 在学学生

### プロジェクト科目: CNSについて

**授業・履修・試験**

- 科目登録日程
- 授業時間等
- 授業概要
- 休講情報
- 試験等の種類と注意 (レポート表紙・追加試験ダウンロード)
- 試験実施情報
- 卒業成績
- 履修への対応について
- 履修情報発表時の授業・試験の実施
- 国内留学・単位互換
- GPA制度の導入について
- 外国語オナーズ (外国語科目成績優等者表彰制度)
- 学則・一般内規
- ネットワーク利用資格認定試験
- パソコン利用者講習会
- プロジェクト科目
  - プロジェクト科目とは
  - テーマ募集
  - テーマ一覧
  - 登録説明会・先行登録
  - 成果報告会
  - CNSについて
  - ダウンロード
- e-Learning

同志社大学では、SNS (Social Networking Service) をベースにプロジェクト科目で活用できるCNS (Communication Networking Service) の開発を進めてまいりました。2007年12月にテスト運用を開始し、機能強化を行って2008年4月よりプロジェクト科目での利用を開始しています。

本システムは、2006年度に現代GPで採択された「公募制のプロジェクト科目による地域活性化～住居地域域連携活動のモデルづくりを目標として～」の取り組みの一環として、「3つのC (Community, Communication, Collaboration)」をサポートし、PBL (Project Based Learning) を円滑に実施するコミュニケーションシステムとして、2005年度に構築。2007年度から独自に株式会社GELと共同開発を進めていたものです。PBL学習においては、学生同士は当然のこと、指導教員、あるいはスタッフをも含む多様なコミュニケーションや活動の予備が求められますが、本学が提供している従来のシステムでは、これらの要請を単一のシステムで提供することができず、コミュニケーション機能の強化、連絡や情報共有機能、スケジュール管理機能の充実が要望されておりました。また、既に提供している学修支援システムは、履修科目を中心とした構成となっており、受講期間の終了とともに当該授業コンテンツにアクセスできなくなるなど、学生の継続的・総合的な学びを支援することができないという欠点がありました。

CNSシステムでは、SNSの機能を基本として、個人の主体的・目的的な学びに重点を置いて、社会や地域との連携強化をはかるために履修科目自体をコミュニティとして設置します。学びの中心に学生を招き入れて個人の学修履歴を記録し、加えて、様々な履修科目コミュニティにおける学修履歴をコミュニティに記録していくことで、履修期間中はもろもろのこと、履修終了後もレポートリポートとして参照・活用することができ、科目間の学修における有機的な結びつきや連携、振り返りの機会を確保することができます。

関連資料 (1)

関連資料 (2)

各種提出書類 ダウンロード <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/unei.html>

同志社大学  
Doshisha University

大学紹介 教育(学部・大学院) 研究活動 国際交流・留学 図書館 キャンパス施設・設備 産官学連携・地域連携

同志社大学で学びたい方 学費入試 大学院入試 生涯学習 在学生 卒業生 一般の方

ホーム 授業 履修 試験 プロジェクト科目 ダウンロード

## 在学学生

### プロジェクト科目: ダウンロード

**授業・履修・試験**

- 科目登録日程
- 授業時間等
- 授業概要
- 休講情報
- 試験等の種類と注意 (レポート表紙・追加試験ダウンロード)
- 試験実施情報
- 卒業成績
- 履修への対応について
- 履修情報発表時の授業・試験の実施
- 国内留学・単位互換
- GPA制度の導入について
- 外国語オナーズ (外国語科目成績優等者表彰制度)
- 学則・一般内規
- ネットワーク利用資格認定試験
- パソコン利用者講習会
- プロジェクト科目
  - プロジェクト科目とは
  - テーマ募集
  - テーマ一覧
  - 登録説明会・先行登録
  - 成果報告会
  - CNSについて
  - ダウンロード
- e-Learning

登録志願書 [PDF: 764KB]

各種ワークシート [Excel: 694KB]

活動報告書フォーム [Word: 22KB]

登録フォーム [Word: 23KB]

プロジェクト科目 学研交付補助費責任保険料納入用紙 [PDF: 101KB]

「学外における授業実施等に關する届」 [PDF: 20KB / WDSO: 24KB]

CNS

- CNS登録ガイド [PDF: 2MB]

プロジェクト手帳

- プロジェクト手帳の使い方 [PDF: 243KB] [391KB / 30更新]
- 以手帳ワークシート (新緑色: 授業マクロ付) [Excel]
- 以手帳ワークシート (新緑色: サイトスライド) [Excel]
- 以手帳ワークシート (新緑色: サイトスライド) [Excel]
- 以手帳ワークシート (新緑色: スキーマスライド) [Excel]
- 以手帳ワークシート (新緑色: 2D) [Excel]
- 以手帳ノート [PDF: 104KB] [2014/01/12更新]
- 以手帳クラス [PDF: 26KB] [2011/04/19更新]
- 以手帳 同志社の文化 [PDF: 296KB]
- 以手帳 キャンパスマップ [PDF: 363KB]

PDF形式の文書をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。アイコンをクリックしてダウンロードしてください (開演)

お問い合わせ: [j-pbl@mail.doshisha.ac.jp](mailto:j-pbl@mail.doshisha.ac.jp)

今出川校舎 教務課教務係  
TEL: 075-251-4630  
FAX: 075-251-2064

教務事務センター 庶務課  
TEL: 0774-65-7053  
FAX: 0774-65-7049



## PBL推進支援センターホームページ

TOPページ <http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/>

同志社大学  
Doshisha University

大学紹介 教育(学部・大学院) 研究活動 国際交流・留学 図書館 キャリア形成支援・就職 留学・国際連携・地域連携

同志社大学で学びたい方 学際入試 大学入試 生進支援 在学生 卒業生 一般の方

ホーム 新着 研究所・センター PBL推進支援センター

教育(学部・大学院)  
PBL推進支援センター

プロジェクト  
『7プロジェクト・リテラシー』新しい教育教育  
—課題解決能力を育成するPBL教育の方法的  
整備— 注、平成21年度「大学教育・学生支援  
推進事業【テーマ7】大学教育推進プログラ  
ム」に採択されました。

プロジェクト科目

お知らせ

- 2013/12/26 1月7日(土)に2013年度第4回PBL推進協議会を開催します。詳細は後述  
裏にお問合せください。
- 2013/11/24 12月8日(木)に2011年度第3回市民公開型教員協議会を開催しま  
す。
- 2012/11/4 11月12日(土)に2012年度第3回PBL推進協議会を開催します。詳細は後  
述裏にお問合せください。
- 2012/9/28 10月14日(金)に2012年度第2回市民公開型教員協議会を開催しま  
す。(終了しました)
- 2011/9/20 2011年10月22日(土)にPBL教育フォーラム  
を開催します。(終了しました) 『学生のやる気を引き出すPBL  
—実践的な学習をサポートする  
授業のしずか』  
シンポジウムの開催はごち  
うさ。
- 2011/9/13 9月17日(土)に2011年度第1回PBL推進協議会を開催します。詳細は後  
述裏にお問合せください。
- 2012/7/7 7月22日(金)に2011年度第1回市民公開型教員協議会を開催しま  
す。(終了しました)
- 2012/2/10 2月5日(土)に第1回・第4回市民公開型教員協議会を開催しま  
す。(終了しました)
- 2010/12/17 2011年2月26日(土)にシンポジウムを開催  
します。(終了しました) PBL教育における多様な実践  
—PBLは社会で教えるのか?—  
シンポジウムの開催はごち  
うさ。
- 2010/11/16 12月4日(土)に2010年度第3回PBL推進協議会を開催します。詳細は後  
述裏にお問合せください。
- 2010/9/6 9月28日(土)・9月29日(土)に市民公開型教員協議会を開催しま  
す。(終了しました)

■ 研究所・センター

- 全学共通教養教育センター
- 言語文化教育研究センター
- 人文科学研究所
- アメリカ研究所
- 理工学研究所
- キリスト教文化センター
- 歴史資料館
- 研究開発推進機構
- 教育開発センター
- 同志社史資料センター
- 環境保全・実験実習支援センター
- PBL推進支援センター
  - PBL推進支援センター長からのご挨拶
  - センター概要
  - 組織体制
  - 事業内容の詳細について
  - PBL推進協議会
  - 市民公開型教員協議会
  - 参考資料
  - リンク
  - お問合せ/アクセス

センター概要 <http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/about.html>

同志社大学  
Doshisha University

大学紹介 教育(学部・大学院) 研究活動 国際交流・留学 図書館 キャリア形成支援・就職 留学・国際連携・地域連携

同志社大学で学びたい方 学際入試 大学入試 生進支援 在学生 卒業生 一般の方

ホーム 新着 研究所・センター PBL推進支援センター

教育(学部・大学院)  
PBL推進支援センター

センター概要

■ 研究所・センター

- 全学共通教養教育センター
- 言語文化教育研究センター
- 人文科学研究所
- アメリカ研究所
- 理工学研究所
- キリスト教文化センター
- 歴史資料館
- 研究開発推進機構
- 教育開発センター
- 同志社史資料センター
- 環境保全・実験実習支援センター
- PBL推進支援センター
  - PBL推進支援センター長からのご挨拶
  - センター概要
  - 組織体制
  - 事業内容の詳細について
  - PBL推進協議会
  - 市民公開型教員協議会
  - 参考資料
  - リンク
  - お問合せ/アクセス

■ 設置の背景

情報社会の中で育った現代の学生は、情報処理能力等に優れている反面、異年齢集団によって構成される実社会の中での場当たり感が乏しく、既知の情報あるいは技能を問題解決のために適切に活用する課題解決能力が低いという特徴が、年を追う毎に浮き彫りになってきています。このため、大学教育においても、情報・技能依存型従来の「インプット重視型」に加えて、課題解決能力を育成する「アウトプット重視型」教育の一環の充実が強く求められるようになってきました。「良心教育」を建学の精神とする本学は、「正しいことを知る」だけでなく、「正しいことを実行できる」人材を育成するという現代的教育的課題に進んで取り組むことが教育的使命であると判断しました。

本学では、平成16年度より、「社会の教育力を大学に」をスローガンに掲げ、幅広い学びの保証を目的として、応用倫理制度を導入して、プロジェクト科目約25クラスを正課科目として全学域に提供することを決定し、真身に置かれてきた地域社会との連携を基盤として、地域社会が潜在的に有する教育力を大学が積極的に活用し、異年齢集団によって構成される学生の高関心の中で、プロジェクト・リテラシーを有する学生の育成に努めてきました。さらに、現在は、学部・研究科の専門科目の分野においてもPBLが積極的に導入されており、課外活動やキャリア支援においてもPBLが展開されています。

しかしながら、現在、学内外で展開されているPBLは多種多様であり、体系的な理論構築がなされておらず、高等教育におけるPBLの手法もまだ確立されていません。学士課程教育の質保証の観点から、単位制度の実質化と成績評価基準の明確化にさらなる積極的取り組みが必要があります。さらに、プロジェクト・リテラシーを養成するには、社会連携型のPBLによる実践的・総合的な幅広い学びの保証と双方向型学習における振り返りとフィードバックが不可欠です。そこで、上記の課題に積極的に取り組むためには、プロジェクト科目を中心とした学習環境の整備と、多様なPBLについて的方法論的検証が必要であると判断し、これまでの取組の中で蓄積された成果と課題を踏まえ、教育方法としてのPBLの理論と実践を推進する観点「PBL推進支援センター」を本学内に設置することとしました。

PBL推進支援センターでは、下記の事業を推進します。

- 学内の取組体制の充実整備  
学内の取組体制の充実整備を図ります。
- 学外との連携  
PBL推進・研究のネットワークを学外に向けて展開し、PBLの研究、および、モデル開発を推進します。

事業内容の詳細について <http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/jigyo.html>

The screenshot shows the website for the PBL Center at Doshisha University. The page title is '事業内容の詳細について'. The main content area is divided into several sections:

- PBLの調査研究・モデル開発**: Discusses research and model development for PBL, mentioning a survey of PBL implementation at other universities and the development of a PBL model.
- PBL推進支援センター委員会の開催**: Describes the activities of the PBL Center's steering committee, including its role in evaluating and certifying PBL activities.
- PBL推進支援センター報の発行**: Mentions the publication of a newsletter for the PBL Center, providing information on PBL activities and research.
- PBLへの履修支援**: Details support for PBL courses, including the development of a PBL course catalog and the provision of support for students.
- SNS (SNS型WEB学修支援システム)の開発**: Discusses the development of a SNS-based web learning support system, highlighting its features and benefits for students.

The left sidebar contains a navigation menu with categories like '研究所・センター' (Research Institute/Center) and 'PBL推進支援センター' (PBL Center).

PBL推進協議会 <http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/suishin.html>

The screenshot shows the website for the PBL Center at Doshisha University, specifically the 'PBL推進協議会' (PBL Center) page. The page title is 'PBL推進協議会'. The main content area is divided into several sections:

- 2011年度**: Lists the activities of the PBL Center for the 2011 fiscal year.
- 第4回 PBL推進協議会**: Details the 4th PBL Center meeting, including the date, time, location, and agenda.
- 第3回 PBL推進協議会**: Details the 3rd PBL Center meeting, including the date, time, location, and agenda.

The left sidebar contains a navigation menu with categories like '研究所・センター' (Research Institute/Center) and 'PBL推進協議会' (PBL Center).

市民公開型教職員協同講習会 <http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/lecture.html>

The screenshot shows the website for the 'Citizen Open-type Faculty Collaborative Seminar' (市民公開型教職員協同講習会) at Doshisha University. The page is titled '2011年度 市民公開型教職員協同講習会' and provides details for two sessions. The first session is on July 22nd (Saturday) from 4:45 PM to 6:15 PM, featuring a 'Project-based Leadership' (プロジェクトにおけるリーダーシップ) workshop with a communication company representative. The second session is on October 14th (Friday) from 4:45 PM to 6:15 PM, featuring a 'Project-based Team Building' (プロジェクトにおけるチームビルディング) workshop with an office manager. The page also includes a list of research centers and a sidebar with navigation links.

シンポジウム開催報告 〈例〉 <http://www.doshisha.ac.jp/academics/activity/sympo110226.html>

The screenshot shows the website reporting on a symposium titled '文部科学省「大学教育・学生支援推進事業（大学教育推進プログラム）」に関わるお知らせ' (Notice regarding the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology's 'University Education and Student Support Promotion Project (University Education Promotion Program)'). The report describes a symposium held on February 26th (Saturday) at Doshisha University, focusing on 'Project-based Learning' (PBL) and 'Project-based Leadership' (PBL教育における多面的評価-PBLは社会で役に立つか?). The report details the participation of university faculty, students, and representatives from various organizations, including a presentation by a student and a discussion on the future of PBL in higher education.

参考資料 ダウンロード <http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/siryu.html>

The screenshot shows the website for the PBL Support Center at Doshisha University. The page is titled "参考資料" (Reference Materials) and lists various documents and reports. The navigation menu includes "大学紹介", "教育(学部・大学院)", "研究活動", "国際交流・留学", "図書館", "キャリア形成支援・就職", "教員・学生支援", "お問い合わせ", "MAP・交通機関", and "サイトマップ".

**参考資料**

- 研究部・センター
  - 全学共通教養教育センター
  - 国際文化教育研究センター
  - 人文科学研究所
  - アメリカ研究所
  - 理工学研究所
  - キリスト教文化センター
  - 歴史資料館
  - 研究開発推進機構
  - 教育開発センター
  - 同志社史料資料センター
  - 環境保全・英検対策支援センター
  - PBL推進支援センター
    - ▶ PBL推進支援センター長からのご挨拶
    - ▶ センター概要
    - ▶ 組織体制
    - ▶ 事業内容の詳細について
    - ▶ PBL推進協議会
    - ▶ 市民公開型教職員信用講習会
    - ▶ 参考文献
    - ▶ リンク
    - ▶ お問い合わせ/アクセス

- ◎ 公開型のプロジェクト科目による地域活性化 取り組み報告書 (2009.3発行) [PDF: 16MB]
- ◎ 同志社大学でのプロジェクト  
『未来を切り拓く同志社発PBLの挑戦』 (2009.11発行) [PDF: 1.44MB]
- ◎ 『プロジェクト学習とポートフォリオ (1)』 [PDF: 393KB]  
『文部科学教育通信』212号 (2009.9.14) (株式会社 シアース 教育新社 発行)
- ◎ 『プロジェクト学習とポートフォリオ (2)』 [PDF: 467KB]  
『文部科学教育通信』228号 (2009.9.28) (株式会社 シアース 教育新社 発行)
- ◎ 『プロジェクト学習とポートフォリオ (3)』 [PDF: 390KB]  
『文部科学教育通信』249号 (2009.10.12) (株式会社 シアース 教育新社 発行)
- ◎ PBL推進支援センター通信 Vol.1 (2010.3発行) [PDF: 4.9MB]
- ◎ PBL推進支援センター通信 Vol.2 (2010.9発行) [PDF: 5.9MB]
- ◎ PBL推進支援センター通信 Vol.3 (2011.3発行) [PDF: 12MB]
- ◎ PBL推進支援センター通信 Vol.4 (2011.9発行) [PDF: 5.6MB]
- ◎ シンポジウム『未来を切り拓くPBL-「教育」の扉を越えて』 (2010.2.20) [PDF]
- ◎ シンポジウム『PBL教育における多面的評価-社会が求める人材像』 (2010.6.26) [PDF]
- ◎ シンポジウム『PBL教育における多面的評価-PBLは社会で自に立つか?』 (2011.2.26) [PDF]

PDF形式の文書をご覧になるには Adobe Readerが  
必要です。アイコンをクリックしてダウンロードして  
ください。(検索)

法人内諸学校 | リンク集 | このサイトについて | 個人情報保護について | 情報セキュリティポリシー | 教職員募集 | 本学教職員

Copyright(C) Doshisha University All Rights Reserved.

## 刊行物 (パンフレット、冊子類)

### ●プロジェクトをベースに展開する参加型・実践型の学習形態「PBL」の可能性

平成21年度 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プロジェクト」  
**プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育**  
 ～課題探究能力を育成するPBL教育の方法論的整備～

# プロジェクトをベースに展開する 参加型・実践型の学習形態 「PBL」の可能性

同志社大学 PBL推進支援センター

### プロジェクト科目テーマ一覧(抜粋)

- 2010年度**
  - 「国語科」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「英語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「経済学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「法学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「文学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「歴史」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「地理」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「保健体育」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「芸術」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「外国語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「情報」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「キャリア」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
- 2009年度**
  - 「英語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「経済学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「法学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「文学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「歴史」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「地理」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「保健体育」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「芸術」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「外国語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「情報」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「キャリア」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
- 2008年度**
  - 「英語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「経済学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「法学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「文学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「歴史」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「地理」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「保健体育」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「芸術」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「外国語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「情報」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「キャリア」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
- 2007年度**
  - 「英語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「経済学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「法学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「文学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「歴史」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「地理」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「保健体育」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「芸術」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「外国語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「情報」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「キャリア」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
- 2006年度**
  - 「英語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「経済学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「法学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「文学」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「歴史」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「地理」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「保健体育」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「芸術」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「外国語」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「情報」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育
  - 「キャリア」の授業に活かせる多岐にわたる「リテラシー」教育

同志社大学 PBL 推進支援センター  
 〒600-8080 京都市北区北山町1-3-1 同志社大学 文部科学省推進事業推進センター  
 TEL: 075-753-4800 FAX: 075-753-4804 E-mail: pbl@doshisha.ac.jp  
<http://www.doshisha.ac.jp/academc/institute/ppbl/>  
<http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>

## キーワードは 「プロジェクト・リテラシー」

### 従来型教養教育の壁を破る「PBL」とは

教養教育のあり方は、時代や社会とともに変化してきています。ただ単に知識を詰め込むことだけでは、学生の将来に必要とされるスキルを身に付けることができません。そこで、従来の教養教育の壁を破る「PBL」とは、従来の教養教育とは異なり、学生が主体的に課題を解決し、課題を解決するために必要な知識やスキルを身に付けることを目指しています。

「PBL」を通じて自分の可能性を知ることは、キャリアデザインを考える上で非常に重要な要素です。「PBL」を通じて、自分の可能性を知ることは、キャリアデザインを考える上で非常に重要な要素です。

知識の習得	技能の習得	態度の習得	自己認識の向上
基礎知識	応用知識	コミュニケーション能力	自己管理能力
専門知識	実践知識	リーダーシップ	チームワーク
基礎知識	応用知識	コミュニケーション能力	自己管理能力
専門知識	実践知識	リーダーシップ	チームワーク

### プロジェクト・リテラシー

### 社会・地域が持っている教育力を活かすために 教育・研究機関、企業・団体、地方自治体、地域の連携が必要です。

教育には、これまで以上に「社会」が求められるようになってきています。大学も例外ではありません。一方では、社会も大学から学びたいというニーズが高まっています。大学は、社会と連携して教育を提供する必要があります。

社会・地域が持っている教育力を活かすために、教育・研究機関、企業・団体、地方自治体、地域の連携が必要です。

同志社大学 PBL 推進支援センター  
 山田 真一

【プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育～課題探究能力を育成するPBL教育の方法論的整備～】  
 同志社大学 文部科学省推進事業推進センター 文部科学省推進事業推進センター 文部科学省推進事業推進センター

## プロジェクト・リテラシーを備えた人材育成のための 教育・研究に無限の可能性を秘めた

# PBL

Project-Based Learning

### プロジェクトをベースに展開する 参加型・実践型の学習形態 PBLによる 新しい教養教育 プロジェクト・リテラシーを養成

PBLは、授業、学習活動の中心に学生が主体的に学習活動を行うことで、多岐にわたる知識・技能・態度・価値観を身に付け、これらを社会で活用できる能力を養成する。また、PBLは、学生の主体的な学習活動を促すことで、学生の自主性・創造性を伸ばす。また、PBLは、学生の主体的な学習活動を促すことで、学生の自主性・創造性を伸ばす。

### PBLの理論と実践を 推進する拠点 PBL推進 支援センター PBLの質的向上を研究

PBLの理論と実践を推進する拠点として、PBLの理論と実践を推進する。また、PBLの理論と実践を推進する。また、PBLの理論と実践を推進する。また、PBLの理論と実践を推進する。

科目担当者を公募し、地域社会と企業が持つ教育力を大学に導入

- ▶ プロジェクト・リテラシーの導入を支援・指導・個人サポート
- ▶ 教育を推進・支援
- ▶ PBLの推進を支援するために専門・学外の協力を依頼
- ▶ 大学の教育成果（PBL）の質的向上を支援・指導・個人サポート

実践的に フィードバック

データ 収集

教育効果測定・自己点検評価・外部評価

プロジェクト・リテラシーを備えた人材を育成するための学習モデルの提示

成果を測定するための評価基準の策定

### プロジェクト科目の授業の流れ

- 1 決める**  
科目担当者・教員が授業の目的、目標、評価方法を決定し、授業計画を立て、シラバスとして学生に提示します。学生は自らの学習を主体的に遂行し、自己点検・評価を行います。授業計画の進捗が把握でき、必要に応じて調整も可能です。
- 2 つかむ**  
プロジェクトの目的や課題のイメージを全員が共有できるように話し合い、それぞれの役割を分担して取り組むようにフィードバックを繰り返しながら進みます。必要に応じて調整も可能です。
- 3 深める**  
自身の得意分野や興味のある分野、課題に深く取り組むことで、自分の強みや得意分野、課題の解決に貢献します。また、課題の解決に貢献することで、活動より学び、学びから成長することを実感します。
- 4 伝える**  
メンバーの進捗結果、活動結果を報告し、プロジェクトの目的、目標を踏まえて、成果報告としてまとめていく作業を行います。成果報告の準備に向けて、自身の強みや得意分野を伝え、効果的な発表方法を考え、シミュレーションを繰り返して発表会に臨みます。
- 5 評価する**  
活動開始前の授業計画の目的、目標、自分の役割、プロジェクトの成果を踏まえて、自己点検を行います。自己点検の結果を踏まえて、自分の得意分野や興味のある分野、課題に深く取り組むことで、自分の強みや得意分野、課題の解決に貢献します。
- 6 振り返る**  
学生が授業からSA・TA活動での授業報告、意見交換を行うことでプロジェクト活動を振り返ります。科目担当者は、最終成果報告後、学生は学生生活委員会を通じて、プロジェクトの進捗状況を把握し、必要に応じて調整も可能です。

2023年度「プロジェクト・リテラシー」の授業計画

### 教職員の職能開発

教育・研究機関、企業・団体、地方自治体、地域が連携してPBLを改良・進化させていく取り組みが必要です。

大学

教育支援機構

教育効果測定／自己点検・評価／外部評価

PBL推進支援センター

PBL推進支援センター委員会

PBL推進協議会

大学のPBL

諸教育・研究機関のPBL

PBL研究／FD・SDの促進

※ PBLの事務局  
※ プロジェクト・リテラシー推進員  
※ 市民協働推進員

#### PBL推進支援センター

PBL推進支援センターは、プロジェクト・リテラシーの普及を推進する新たな教育実践として、ホームページを通じて学内外に発信し、連携を推進するための21世紀型人材を育成する推進支援の拠点として機能します。

#### PBL推進協議会

学内外のPBL教育における研究活動を支援します。PBL研究を通じて、FDとSDの活用活動を促進し、学生生活委員会の連携に期待しています。

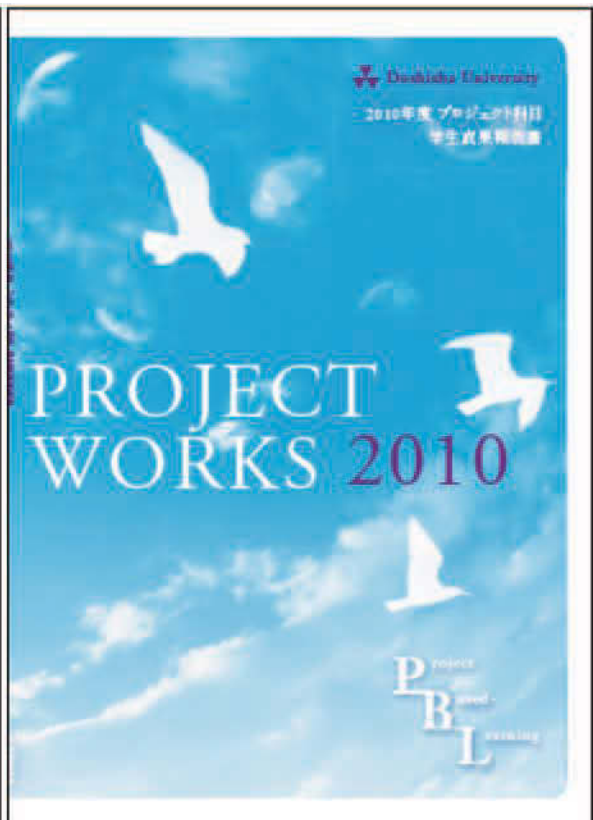
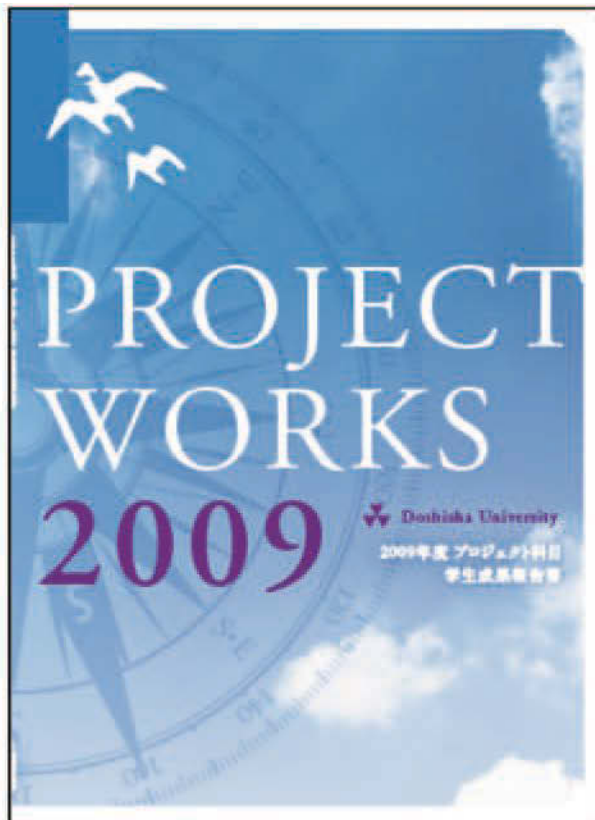
PBLの推進活動を行い、教育実践の向上を図ります。世界的視野から教育実践を推進し、地域社会と連携し、人々の生活に貢献します。

近年定年退職者のSAへの積極的な活用でさらなるリテラシーの向上へ。

※ 協賛  
ONV(SNG) 教育推進支援システム  
高度情報教育  
学生生活委員会・SA・TA 事務局  
科目担当者・代議者懇話会

※ 協力  
チーム研究  
専科支援  
シンポジウムの開催  
プロジェクト・リテラシー推進委員会の開催

●プロジェクト科目学生成果報告書



●PBL推進支援センター通信

# PBL

Project - Based Learning

推進支援センター通信

---

Vol.1



高尾 隆雄 (岡山大学経済学部の学部長)

「PBL推進支援センター設置にあたって」

山田 雅人 (岡山大学経済学部の学部長)

「PBL推進支援センターの目指すもの」

佐藤 隆彦 (岡山大学経済学部の学部長)

「PBLの課題と可能性について」

2014年度プロジェクト報告

- 教育学部「グループワーク」
- 工学部「組立」
- 法学部「模擬裁判」
- 理学部「実験」
- 医学部「実習」

2014年度プロジェクト報告

2014年度プロジェクト報告

岡山大学

# PBL

Project - Based Learning

推進支援センター通信

---

Vol.2



神村 賢二 (岡山大学経済学部の学部長)

「PBL推進支援センターに期待すること」

野村 隆彦 (岡山大学経済学部の学部長)

「PBLの必要性」

活動報告

- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」

2014年度プロジェクト報告

2014年度プロジェクト報告

岡山大学

# PBL

Project - Based Learning

推進支援センター通信

---

Vol.3



高尾 隆雄 (岡山大学経済学部の学部長)

「学生上プロジェクト」

野村 隆彦 (岡山大学経済学部の学部長)

「甲南大学におけるPBLの取組」

活動報告

- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」

2014年度プロジェクト報告

2014年度プロジェクト報告

岡山大学

# PBL

Project - Based Learning

推進支援センター通信

---

Vol.4



高尾 隆雄 (岡山大学経済学部の学部長)

「プロジェクト推進委員会が実行代表者として実施した大学のプロジェクト」

野村 隆彦 (岡山大学経済学部の学部長)

「法政大学におけるPBLの取組」

活動報告

- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」
- 2014年度プロジェクト報告「学生生活改善委員会」

2014年度プロジェクト報告

2014年度プロジェクト報告

岡山大学



**PBL**  
Project - Based Learning

推進支援センター通信

Vol.5

松本 雅也 弘済学院大学 情報科学センター長  
「広島経済大学における  
PBLの取組と今後の展開」

宮本 謙司 弘済学院大学 情報科学センター  
「明治大学におけるPBLの取組」

松尾 裕司  
2011年度「PBL推進協議会」  
「PBL推進フォーラム」(2011年10月)  
2011年度「PBL推進協議会」(2011年10月)開催  
2011年度「PBL推進協議会」(2011年10月)開催  
2011年度「PBL推進協議会」(2011年10月)開催  
2011年度「PBL推進協議会」(2011年10月)開催  
2011年度「PBL推進協議会」(2011年10月)開催

同志社大学

●ブックレット

同志社大学PBL推進協議会発行  
ブックレット(2010年3月 Vol.1)

**PBLにおける  
学びの空間デザイン**

Contents

- ブックレット制作にあたり
- 同志社大学 PBL推進支援センター  
山田 和人 センター長
- 甲南大学 マネジメント学部  
井上 明先生
- 株式会社内閣府  
清村 潔治様
- コグニティブ・株式会社  
高橋 祥子様
- 株式会社伊藤屋  
牛口 翠二様
- 丸善株式会社  
矢野 正樹様

同志社大学PBL推進協議会発行  
ブックレット(2011年3月 Vol.2)

**PBLにおける  
学びのサポート**

Contents

- PBLを支えるとは?
- 同志社大学PBL推進支援センター長 文学部教員  
山田 和人
- 広島経済大学工学部内 アントレプレナー専攻  
田中 武雄  
和氣 明  
大中 逸雄
- 弘済学院大学経済学部 情報科学センター長  
清田 敬彦
- サンフランシスコ州立大学  
高谷 俊樹  
熊野 真子
- 同志社大学推進協議会連携プロジェクト  
クロスファンクショナルチーム  
第4期F&E推進協議会委員  
文徳大学 人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻 講師  
佐々木 保孝  
弘済学院大学情報科学センター  
中川 洋
- 同志社大学PBL推進支援センター  
野村 健  
同志社大学 PBL推進支援センター 事務局 松尾 裕司

●シンポジウム、フォーラム案内

同志社大学 文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマA】  
大学教育推進プログラム シンポジウム

# 未来を切り拓くPBL

—「教育」の壁を越えて—

**2010年  
2月20日(土)**  
13:30~17:45

同志社大学 今出川キャンパス  
明徳館21番教室  
(京都府上京区今出川西丸太町)

**講師**

- 田端 信廣 (同志社大学 法学部 文学部教授)
- 山田 和人 (同志社大学 PBL推進支援センター 長 大学助教授)

**基調講演**  
京都市から見た  
地域連携教育の可能性  
門川 大作 (京都市)

**事例報告**  
小学校・中学校・高等学校・大学における  
PBLの試み

**シンポジウム**  
■学生によるパネルディスカッション  
■新課程の文化を考える  
同志社大学2009年度プロジェクト科目受講生  
■シンポジウム  
■「教育」の壁を越えて

**先着200名  
入場無料**

申込: メールまたはFAX・TELにて先着200名受付 締切日: 2月15日(月)  
主催: 同志社大学PBL推進支援センター (京都府上京区今出川西丸太町、京都府京都市下京区今出川三丁目下京)

同志社大学

文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム

# PBL教育における多面的評価

同志社大学  
PBL推進支援センター  
2010年度 第1回シンポジウム

**2010年6月26日(土) 13:00~16:30**  
同志社大学 今出川校地 明徳館1番教室  
(京都府上京区今出川西丸太町、京都府京都市下京区今出川三丁目下京)

お問い合わせ 同志社大学 教育学部・教育学科 土田 道夫  
本日のシンポジウムについて  
同志社大学 PBL推進支援センター 長 山田 和人

**第1部** シンポジストによる講演  
「社会の求めに応え得る大学教育“キャリア教育”“就業力支援”に関する考察 —企業と大学双方の視点から—」  
長尾 智晶 (同志社大学 経済学部 経済学系 准教授)  
「これからの市議員に求められる資質」  
山本 達夫 (京都府 京都市議会 経済学系 議員)  
「公を抱くNPO人について」  
今村 勲 (京都府 京都市議会 経済学系 議員)  
「企業が期待する人材像」  
武田 一平 (トヨタ自動車株式会社)

**第2部** Q&Aセッション  
長尾 智晶 (同志社大学 経済学部 経済学系 准教授)  
山本 達夫 (京都府 京都市議会 経済学系 議員)  
今村 勲 (京都府 京都市議会 経済学系 議員)  
武田 一平 (トヨタ自動車株式会社)  
山田 和人 (同志社大学 PBL推進支援センター 長 大学助教授)

申込: メールまたはFAX・TELにて先着150名受付 締切日: 6月23日(水)  
主催: 同志社大学PBL推進支援センター (京都府上京区今出川西丸太町)

同志社大学

文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム  
同志社大学 PBL推進支援センター 2010年度 第2回 シンポジウム

# PBL教育における多面的評価

— PBLは社会で役に立つか —

**2011年  
2月26日(土)**  
13:00~16:30

同志社大学  
今出川校地 明徳館1番教室  
(京都府上京区今出川西丸太町、京都府京都市下京区今出川三丁目下京)

**講師**

- 土田 道夫 (同志社大学 教育学部 教育学科 教授)
- 鎌倉 [大学教育に求めるもの]  
海老原 嗣生 (株式会社コトモノ 代表取締役)
- 松本 美奈 (京都市議会 経済学系 議員 教育政策担当)

**在学学生による報告**  
「プロジェクト科目で学生は何を学んでいるか」

**シンポジウム**  
「PBL教育を考える —企業・社会・学生の視点から—」  
同志社大学 PBL推進支援センター 長 大学助教授 山田 和人

**先着150名  
入場無料**

申込: メールまたはFAXにて先着150名受付 締切日: 2011年2月21日(月)  
主催: 同志社大学 PBL推進支援センター (京都府上京区今出川西丸太町、京都府京都市下京区今出川三丁目下京)

同志社大学

文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム

# PBL教育フォーラム

同志社大学 PBL推進支援センター 2011年度 第1回 フォーラム

**2011年  
10月22日(土)**  
13:00~17:10

同志社大学  
新町キャンパス 大  
明徳館301番教室  
(京都府京都市下京区今出川三丁目下京)

**先着150名  
入場無料**

**西納 夢雄**  
同志社大学 全学共通教育センター 長

**新田 謙三**  
社会で求められる「実力」とは?  
Why PBL?

**学生による勉強発表**  
・早稲田大学「プロジェクト・ラーニング・コミュニティ」  
・同志社大学「社会学部 社会学系 4年」  
・正法学院大学「教職教育プログラム」  
・甲南大学「180プロジェクト」  
・同志社大学「プロジェクト発表」

**パネルディスカッション**  
「学生と共に考える学習環境」

申込: メールまたはFAXにて先着150名受付 締切日: 2011年10月17日(月)  
主催: 同志社大学PBL推進支援センター (京都府京都市下京区今出川三丁目下京)

同志社大学

文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム  
同志社大学 PBL推進支援センター 2011年度シンポジウム

**第3弾**

学びの原点 プロジェクト型教育の挑戦！  
誰が何をいかに評価するのか？

2012年2月18日(土)  
13:00~16:40  
同志社大学 今出川校地  
明德館1 番教室

入場無料  
先着150名

【講演者】  
土田 遼夫 (同志社大学教育学部 教育実践研究センター 准教授)  
山田 和人 (同志社大学 PBL推進支援センター 学芸員)

【講演題目】  
「教育とは何かの基本的な問いからPBLの意義を考える」  
濱上 慎一 (京都大学教育実践研究センター 准教授)

【講演者】  
同志社大学プロジェクト科目  
学生報告1  
学生報告2

【講演題目】  
「東京理科大学情報工学部におけるPBL型授業の評価について」  
土肥 紳一 (東京理科大学情報工学部 准教授)

【講演題目】  
「専修大学ネットワーク情報学部におけるPBL型授業の評価について」  
飯田 周作 (専修大学ネットワーク情報学部 教授)

【講演題目】  
「誰が何をいかに評価するのか？」  
濱上 慎一 (京都大学教育実践研究センター 准教授)  
土肥 紳一 (東京理科大学情報工学部 准教授)  
飯田 周作 (専修大学ネットワーク情報学部 教授)  
同志社大学プロジェクト科目 学生  
【司会】同志社大学 PBL推進支援センター 学芸員 山田 和人

● メールまたはFAXにて先着150名受付 (要申込) ● 2012年2月13日(月)

● 同志社大学 PBL推進支援センター (〒604-8621 京都市中京区) ● 申込先 ● 同志社大学 PBL推進支援センター

同志社大学  
〒604-8621 京都市中京区  
TEL:075-251-4000 FAX:075-251-3094 e-mail:pbl@sttc.tus.ac.jp  
http://www.tus.ac.jp/campus/pbl/center/2012/pbl/ http://www.tus.ac.jp/campus/pbl/center/2012/pbl/

●シンポジウム報告書

同志社大学 文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】  
大学教育推進プログラム

プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育  
～課題解決力を育成するPBL 授業の方法論的考察～

未来を切り拓く  
**PBL**  
「教育」の壁を越えて

シンポジウム・レポート  
The report of the symposium  
2010.2.20(土)

同志社大学 PBL推進支援センター

同志社大学 文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】  
大学教育推進プログラム

プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育  
～課題解決力を育成するPBL 授業の方法論的考察～

**PBL教育**における  
**多面的評価**  
～社会が求める人材像～


シンポジウム・レポート  
2010年6月26日(土)  
今出川キャンパス 明德館1 番教室

同志社大学 PBL推進支援センター

立命館大学教育・学生支援推進委員会(サークル)  
大学教育推進プログラム

プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育  
～高度探求能力を育成するPBL教育の方法論的整備～

**PBL教育**における  
**多面的評価**  
—PBLは社会で役に立つか—



シンポジウム・レポート  
2011年2月26日(土)  
今出川キャンパス 明徳館1階教室

立命館大学 PBL推進支援センター

立命館大学教育・学生支援推進委員会(サークル)によるPBL教育推進プログラム  
プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育 ～高度探求能力を育成するPBL教育の方法論的整備～

第3回 学びの原点 プロジェクト型教育の真実!

**誰が何を  
いかに評価  
するのか?**



シンポジウム・レポート  
2012年2月18日(土)  
今出川キャンパス 明徳館1階教室

立命館大学 PBL推進支援センター

## 新聞記事一覧

掲載日	掲載媒体	掲載内容・プロジェクト
<b>■2009年度</b>		
2009年 11月14日(土)	京都新聞	2009年度プロジェクト科目 出会いを楽しめる空間づくり～遊空間のプロデュース～ 「クリスマス飾り 廃材利用しつこう」
2009年 11月15日(日)	岐阜新聞	「プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育 平成21年度大学教育・学生支援推進事業選定」
2009年 12月5日(土)	毎日新聞	「第6回毎日大学フォーラム—第2部事例報告— プロジェクト・リテラシーと新たな教養教育 同志社大 教育支援機構長 圓月勝博氏」
2009年 12月15日(火)	東京新聞	2009年度プロジェクト科目 F1をつくろう! (2009 JSAE 学生フォーミュラーカー大会出場を目指して) 「伝えたい科学の楽しさ 国立博物館 全国の大学「フェスタ」」
2009年 12月17日(木)	京都新聞	2009年度プロジェクト科目 京都の伝統織物の情報発信プロジェクト 「錦織の魅力 同大生探求」
2009年 12月21日(月)	京都新聞	2009年度プロジェクト科目 スポーツイベント開催! 学生と地域の連携によるスポーツクラブ 「武道に挑戦 児童ら真剣」
2010年 1月26日(火)	毎日新聞	2009年度プロジェクト科目 夜間中学を社会に向けて発信しよう! 夜間中学を知っていますか? 「真の学び 考えた」
2010年 1月29日(金)	京都新聞	2009年度プロジェクト科目 「花のキャンパスライフ」から情報発信に挑戦、新聞、ラジオ、ネットで 「同大生がラジオ番組」
<b>■2010年度</b>		
2010年 5月26日(水)	朝日新聞	「関西の大学力 同志社大学の真価」
2010年 6月11日(金)	毎日新聞	2010年度プロジェクト科目夜間中学を社会に発信しよう! 夜間中学を知っていますか? 「同大生、夜間中学を訪問」
2010年 7月30日(金)	毎日新聞	2010年度プロジェクト科目夜間中学を社会に発信しよう! 夜間中学を知っていますか? 「夜間中学の重要性訴え」
2010年 8月19日(木)	京都新聞	「同志社大・市民公開型教職員協同講習会 「経済産業界から学ぶPBL」」
2010年 9月1日(水)	京都新聞	「実践・参加型授業テーマ公募」
2010年 9月13日(月)	京都新聞	2008年度プロジェクト科目 玩具産業を通じて学ぶ学生のための「実践と自立のための玩具企画開発」 「同大生発案 3Dカメラ」
2010年 9月23日(木)	京都新聞	「同志社大・市民公開型教職員協同講習会 「経済産業界から学ぶPBL」」
2010年 10月5日(火)	朝日新聞	2008年度プロジェクト科目 玩具産業を通じて学ぶ学生のための「実践と自立のための玩具企画開発」 「同大生発案 3Dカメラ」
2010年 11月16日(火)	京都新聞	2010年度プロジェクト科目 ウィーン風成人式「オーパンバル in 同志社」実現プロジェクト 「成人デビュー「舞踏会」で」
2010年 12月14日(火)	毎日新聞	2008年度プロジェクト科目 玩具産業を通じて学ぶ学生のための「実践と自立のための玩具企画開発」 「女子大生が3Dデジカメ」
2010年 12月19日(日)	京都新聞	2010年度プロジェクト科目 花で生きる力を高める—花を活用する生活と社会活動の企画実践プロジェクト— 「花や落ち葉でアート」

2010年 12月20日(月)	京都新聞	2010年度プロジェクト科目 『スポーツイベント開催！』学生と地域の連携によるスポーツクラブ 「武道8種目 児童ら挑む」
2010年 12月25日(土)	朝日新聞	2010年度プロジェクト科目 食育と健康（自家菜園を通して薬膳を考える） 「同志社大生 薬膳レシピ」
2010年 12月30日(木)	京都新聞	2010年度プロジェクト科目 食育と健康（自家菜園を通して薬膳を考える） 「薬膳 お勧め22のレシピ」
2011年 1月10日(月)	京都新聞	2010年度プロジェクト科目 ウィーン風成人式「オーパンバル in 同志社」実現プロジェクト 「踊る学生 大人実感」
2011年 1月18日(火)	京都新聞	2010年度プロジェクト科目 環境教育教材作成プロジェクト—環境マインドを持った次世代リーダーの育成 「環境すごろくでエコ学習」
2011年 2月2日(水)	毎日新聞	2010年度プロジェクト科目 夜間中学を社会に発信しよう！夜間中学を知っていますか？ 「夜間中学を知っていますか」
2011年 2月21日(月)	毎日新聞	2010年度プロジェクト科目 夜間中学を社会に発信しよう！夜間中学を知っていますか？ 「『学ぶ権利』守る夜間中学 同志社大生 冊子で問題提起」
2011年 3月16日(水)	けいはんな オブザーブ	2010年度プロジェクト科目 食育と健康（自家菜園を通して薬膳を考える） 「旬の薬膳で健康ライフを 同志社大生が授業の成果を冊子に」
■2011年度		
2011年 6月20日(月)	毎日新聞	2011年度プロジェクト科目 夜間中学を社会に発信しよう！夜間中学生を知っていますか？ 「『夜間中学のあした』どこへ？」
2011年 7月10日(日)	京都新聞	2011年度プロジェクト科目 「京丹後漁業活性化プロジェクト—新たな地域ブランド商品の開発」 「『京丹後の魚介で新商品を』同大生ら料理試作、披露」
2011年 7月10日(日)	毎日新聞	2011年度プロジェクト科目 「京丹後漁業活性化プロジェクト—新たな地域ブランド商品の開発」 「バイガイ加工新商品今秋完成」
2011年 7月13日(水)	教育学術 新聞	山田和人PBL推進支援センター長「PBLによる学びの学習 法政大がFDワークショップ」
2011年 7月14日(木)	産経新聞	2011年度プロジェクト科目 「京丹後漁業活性化プロジェクト—新たな地域ブランド商品の開発」 「京丹後に新たな地域ブランドを」
2011年 8月4日(木)	産経新聞	2008年度プロジェクト科目 玩具産業を通じて学ぶ学生のための「実践と自立のための玩具企画開発」 「産学協同 女子大生ブーム？」
2011年 8月27日(土)	京都新聞	「参加型授業のテーマを募集 同志社大」
2011年 11月1日(火)	京都新聞	2011年度プロジェクト科目 私はイベントプロデューサー！ 「西陣織で特大タペストリー作り」
2011年 11月15日(火)	京都新聞	2011年度プロジェクト科目 ソーシャル・プロデューサー養成講座～統一地方選挙と坂本龍馬をプロデュースせよ～ 「平成の龍馬になれ」
2011年 12月11日(火)	毎日新聞	2011年度プロジェクト科目 食育と健康（薬膳と野菜作りで、正しい食事と健康を考える） 「同大生が『鍋フェスタ』の収益を寄付」
2011年 12月22日(木)	化学工業 日報	2011年度プロジェクト科目 ものづくり・人づくり 中村成男（科目担当者） 「母校の学生にレーシングカー作成指導」
2012年 1月6日(金)	朝日新聞	2011年度プロジェクト科目 プロスポーツにおけるファン獲得と地域密着のためのマーケティングリサーチ 「京都！元気スポーツ祭」
2012年 2月21日(火)	京都新聞	2011年度プロジェクト科目 「平成の京街道をゆく～京阪沿線の魅力を発見・発掘・発信しよう！」 「『宿場町』で沿線PRを」
2012年 2月29日(水)	毎日新聞	2011年度プロジェクト科目 夜間中学を社会に発信しよう！夜間中学生を知っていますか？ 「夜間中学もっと知って」

---

平成21年度 文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム

プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育  
～課題探求能力を育成するPBL教育の方法論的整備～  
取組報告書

---

2012年3月 発行

編集・発行 同志社大学教育支援機構教務部教務課  
PBL推進支援センター事務局  
〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL 075-251-4630 FAX 075-251-3064  
e-mail : ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp

(PBL推進支援センター) <http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/>  
(プロジェクト科目) <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>  
(プロジェクト科目ブログ) <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>

禁無断転載 非売品